

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力を育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度かどうか)	評価 A S D	分析と改善点
方針・重点・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②「なりたい自分」へ向かう個の見届け・一人ひとりの子に居場所をつくる ③地域との協働・地域社会への発信 ④生き生きと働ける学校づくり	輝け 東小の子 明るく やさしく たくましく	仲間を尊重し 自分から進んで 挑戦し続ける力	授業改善	① 主体的に取り組む授業	授業の中で、児童が学習の見通しを持ち、振り返りまでを行う。	B	○対話については、授業の形態をグループ机にすることで、対話しやすい環境となった。以前よりも教師が話す時間が短くなり、児童間での話し合いや交流が増えた。 △児童が主体的に取り組むために、7年度の校内研では課題や見通し、対話の視点等の学び方を児童と共有する。自分で計画し、見通しを持って学習を進めることができる児童を育成する。
					① 対話によって深まる授業	対話を通して考えを深める活動を充実させる。	A	
					① 自ら選び学び取る授業	ICT等を活用を工夫し、個々の児童の学習を支援する。	B	
				地域との協働学習	① 探究的な学習の充実	各活動において、「目的」「見通し」「発信」について児童と共有する。	B	○まちづくり協議会との打ち合わせを行いながら、充実した学習活動を行うことができた。また、学習発表会を行うことで、明確な目標ができ、意欲につながった。仲間同士だけでなく、大人にも話す機会ができたことで、よい発信の場となった。 △児童自身が自分の考えを整理し、分析やまとめにつなげていく取り組みが進められる学習システムを学校全体で構築する。
					③ 煥章学での地域への発信	学習発表会等を活かし、児童の発信の場を確保する。	A	
					④ まちづくり協議会との協働の推進	まちづくり協議会との協働により、児童の学習の充実と教員の働き方改革を進める。	A	
				自己指導能力の育成	② なりたい自分に向けて取り組む土台づくり	仲間の目標や頑張りを尊重する学級づくりをする。	A	○「なりたい自分」に向けて、常に振り返りを行いながら取り組み、児童の姿の変容が見られた。活動方法は全校で共有しており、どの学級でも同じように進めることができています。(なりたい自分に向けて、よりよい自分づくりができた児童:93%) △目標の立て方については、学年により難しさがある。活動の意味を児童と共有し、成長につながる活動となるように改善する。
					② 学年に応じた目標の設定	学年に応じた効果的な目標の立て方を明確にする。	B	
					② 東小の「なりたい自分」の取り組み方法の確立	目標の立て方、取り組み課程、振り返りの方法について検証する。	B	

学校運営協議会における主な評価内容

・授業の様子から、児童の活動や発言が多い。生き生きと学んでおり、全体的に明るい雰囲気がある。

・チーム担任制(5, 6年)の実施については、児童や保護者、担任にとってよい取り組みである。ぜひ、今後も継続してほしい。ただし、できれば各学級に1名、担任として決めておけるとよい。また、担任同士の情報共有は時間がかかり、負担も増えるが、大切である。